



平成 21 年度 放射性同位元素等取扱施設安全管理担当教職員研修  
実施要領

1. 目的及び経緯

大学等における放射性同位元素の利用範囲の拡大や利用形態の多様化に伴い、放射線安全管理の徹底を図ることが益々重要となってきた。このため、大学等の放射性同位元素等取扱施設における放射線安全管理担当教職員に対し、実習を含めた最新の知識と情報を提供し、その資質向上を図り、もって教育・研究の進展及び施設周辺をも含めた放射線安全の確保を図ることを目的とする。

この研修は平成 15 年度までは、文部科学省と国立大学アイソトープ総合センター共催により開催されてきた。平成 16 年 4 月の国立大学法人化後、文部科学省との共催は困難になったが、同研修の重要性に鑑み、これまで同研修を担当してきた東京大学、京都大学、東北大学、名古屋大学、大阪大学の 5 大学アイソトープ総合センターが法人化後も共催で、研修実施会場校を持ち回りで開催することとなった。

平成 21 年度は京都大学放射性同位元素総合センターを会場として開催することとなり、同センターで受講申込みを受け付ける。

2. 主催

東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター  
東京大学アイソトープ総合センター  
名古屋大学アイソトープ総合センター  
京都大学放射性同位元素総合センター  
大阪大学ラジオアイソトープ総合センター

3. 研修期間及び会場

期間：平成 21 年 10 月 15 日（木）～16 日（金）  
会場：京都大学放射性同位元素総合センター 教育訓練棟

4. 受講資格

各大学等の放射性同位元素等取扱施設における放射線安全管理担当教職員であること。

5. 受講定員

約 50 名

6. 申込み及び決定

(1) 申込み

各大学（機関）の長は、希望者を別紙様式（1，2）により、平成 21 年 8 月 14 日（必着）までに、京都大学放射性同位元素総合センター長に推薦すること。（2 名以上の場合は優先順位を付すこと）。  
なお、希望者がいない場合においては、別紙様式 1 の「事務連絡先」欄のみ記入し、その旨回答してください。

## (2) 受講者の決定

京都大学放射性同位元素総合センター長は、前項により推薦された者の中から、協議のうえ受講者を決定し、受講申込者の所属大学（機関）の長に通知する。

## 7. 研修課題及び内容

### 7.1 研修課題

『放射線施設の安全管理と危機管理』

### 7.2 研修内容

#### (1) 講義及び見学：[地震と耐震・防災]

◆地震のメカニズムを理解した上で、耐震の必要性・実際の対応を学び、これらを踏まえて、防災のあり方を学ぶ。

講義Ⅰ. 地震	『地震を正しく恐れよう』	京都大学 防災研究所	川崎 一朗
講義Ⅱ. 耐震	『建物の耐震・制震・免震』	京都大学 工学研究科	竹脇 出
講義Ⅲ. 防災	『京都市の防災対策について』	京都市消防局 防災危機管理室	梅垣 浩久

◆次に「地震・耐震・防災」を念頭に対象として、RI 等施設を考え実際に震災を経験した施設の管理担当者から経験談を聞く。さらに地震を想定して、耐震工事を行った例を紹介する。

#### 講義Ⅳ. 地震に遭遇して

##### ①『大規模災害に学ぶこと～中越地震を経験して～』

小千谷総合病院 放射線科 山賀 敏彦

##### ②『阪神淡路大震災時の放射線安全管理担当者としての対応』

神戸薬科大学 放射線管理室 安岡 由美

##### ③『耐震補強改修は管理者の自信を補強する - 心配の種を根こそぎ処理 -』

京都大学放射性同位元素総合センター 宮武 秀男

◆京都大学キャンパス内で、耐震工事を行った現場の見学

予定：時計台（防震対応）、RI センター本館研究棟（耐震工事完了）、学内耐震工事

#### (2) 実習：[変更承認申請への対応]

◆想定される実務として、変更申請の作成が考えられるので、以下の講義、実習を行う。

なお、受講生は当日ノートパソコンを持参していただき、こちらで準備したソフト（IsoShieldII）を使用して実習を行う予定である

##### ① 申請書作成時の留意点（解説、質疑応答）

##### ② 施設の改修に伴う変更申請に必要な遮へい・濃度計算（実習）

#### (3) 特別講演

『最近の安全規制の動向について』

文部科学省 科学技術・学術政策局

原子力安全課 放射線規制室

#### (4) パネル討論会

##### 『今後の研修のあり方』

事前のアンケートを元にパネリスト(幹事校)と今後の研修会のあり方について討論・意見交換をする。

#### 8. 経費

研修費(受講料)は無料とし、研修旅費は派遣大学(機関)の負担とする。

#### 9. その他

各放射性同位元素等取扱施設における放射線安全管理担当教職員については、一定期間ごとに本研修を受講させるよう、ご配慮願います。

今回の研修の総合テーマは『放射線施設の安全管理と危機管理』です。施設の耐震改修を予定されている管理担当教職員の方、また危機管理を念頭に施設の見直しを検討されている施設からの参加を歓迎致します。

〈本件連絡・申込先〉

京都大学 放射性同位元素総合センター

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

電 話 : 075-753-7500

F A X : 075-753-7504

M a i l : kensyu09@barium.rirc.kyoto-u.ac.jp

# 時間割

平成21年10月15日（木）

8	<第1日>	
8:30	受付、登録	
9	挨拶、ガイダンス	
10	講義Ⅰ	<b>講義Ⅰ：地震</b> 9:15～10:45 『地震を正しく恐れよう』 京都大学防災研究所 地震予知研究センター 川崎 一朗
11	講義Ⅱ	<b>講義Ⅱ：耐震</b> 10:45～11:45 『建物の耐震・制震・免震』 京都大学 工学研究科 竹脇 出
12	記念撮影	11:45～12:00
	(昼食)	記念撮影：教育訓練棟3F 講義室
13	講義Ⅲ	<b>講義Ⅲ：防災</b> 13:00～14:30 『京都市の防災対策について』 京都市消防局 防災危機管理室 梅垣 浩久
14	特別講演	<b>特別講演：</b> 14:30～15:30 『最近の安全規制の動向について』 文部科学省 科学技術・学術政策局 原子力安全課 放射線規制室 中矢 隆夫
15	見学	<b>見学ツアー：説明[15分]</b> 15:30～17:00 本館研究棟見学 [20分] 百周年記念時計台 [20分] 学内施設 [20分]
16	(移動)	
17	参加者交流会	17:30～19:30 参加者交流会：芝蘭会館
18		
19		

平成21年10月16日（金）

8	<第2日>	講義Ⅳ：地震に遭遇して 『大規模災害に学ぶこと～中越地震を経験して～』 小千谷総合病院放射線科 山賀 敏彦	9:00～11:00
8:40	受付		
9		『阪神淡路大震災時の放射線 安全管理担当者としての対応』 神戸薬科大学放射線管理室 安岡 由美	
10	講義Ⅳ	『耐震補強改修は管理者の自信を補強する - 心配の種を根こそぎ処理 - 』 京都大学放射性同位元素総合センター 宮武 秀男	
11			
12	実習Ⅰ	実習Ⅰ： 申請書作成時の留意点（質疑応答 20分含） 独立行政法人日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター 齋藤 圭	11:00～12:20
13	(昼食)		
14			
15	実習Ⅱ	実習Ⅱ： “施設の改修に伴う変更申請に 必要な遮へい（濃度）計算（実習）”	13:30～16:00
16	パネル討論会	パネル討論会： “今後の研修のあり方”	16:00～16:50
17	講評		
	閉会式 (修了証書授与・挨拶)		
	解散		

パネリスト：研修担当幹事校